

リオ五輪 日本代表 真鍋監督支え躍進を

女子バレーに 兵庫の裏方力

リオデジャネイロ五輪のバレーボール女子で40年ぶりの金メダル獲得を目指す日本代表の真鍋政義監督(52)＝姫路市出身＝を、同じ兵庫県出身のスタッフを支えている。マネジャーの宮崎さとみさん(38)＝神戸市北区出身＝と、オプエンス担当コーチの水野秀一さん(35)＝姫路市出身。2人は、最高の結果を残せるようにと役割を全うする。(小川康介)＝11面参照

選手の姉貴分 宮崎マネジャー

神戸出身

宮崎さんは日本代表に携わって8年目で、28年ぶりに銅メダルを手にした前回のロンドン五輪も経験した。練習への関係者の出入りや取材の調整のほか、遠征や合宿などで選手たちに生活指導をする。こともあり、「今学生が同校を志望しては選手にとってお姉さんのような存在」(真鍋監督)と頼られている。

強豪の須磨ノ浦高で活躍し、1995年の阪神・淡路大震災時は主将。家屋の下敷きになって亡くなった神戸市内の女子中学生が、

日本代表1年目の初の国際大会で、メンバー表の提出を忘れる大失敗をした。幸い試合は続行され、チームもロシアに勝利。真鍋監督は「いやいや、か、勝ったんやから、もうこういうミスはしないだろう」と切怒らず、宮崎さんは「この人が

監督をやっている限りは、ついていこう」と決めた。ロンドン五輪では銅メダルにも「自分には何ができたかな」と冷静だったという。だからまだ続けているのかと宮崎さん。「私の仕事は選手をコートに送り出すまで。リオで良い結果を残すため全力でサポートする」と、妹たちの活躍を祈る。



バレーボール女子日本代表の真鍋政義監督(中央)を支える宮崎さとみマネジャー(左)と水野秀一コーチ(東京)＝味方の養育センター

姫路出身

「金メダル獲得のために力を貸してほしい」。ロンドン五輪後の2013年、長崎国際大の監督だった水野さんは、ノルウェーなど欧州3カ国で指導した経験や人脈を買われ、真鍋監督からコーチ就任の要請を受けた。姫路市立東光中でバレーを始め、姫路西高から筑波大に進学。大学では日本一に輝いた。卒業後、練習を手伝った縁で女子の日立のコーチとなったが、「海外相手にも勝てる

攻撃の指南役 水野コーチ

よう、いろいろな練習法を学びたい」と1年で退任し、7年間、欧州で修行を積んだ。研究熱心で、代表でサブコーチを担当した際には、ボールの特性を知るため、メーカーに向いて風洞実験の結果を聞き取り、データを踏まえて選手に打ち方を示した。今は真鍋監督と2人で、世界の高いプロテクを攻略できるような策を練っている。水野さんは「監督とは共通の恩師もいて、親しみを感ずる。結果で監督を盛り上げたい」と躍進を誓う。